

事業報告書 (平成30年度)

事業名 大人の社会参画の機会を上げ、子どもの「思い出格差」を解決するプロジェクト

団体名 NPO 法人チャリティーサンタ 岡山支部 担当者名 河津 泉

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

●クリスマスのサンタクロースの訪問を通じた寄付や社会参画活動の実施

事前に保護者(家庭)から申し込みをもらい、各家庭へサンタクロース(独自サンタ研修を受けたボランティア)が訪問する活動を実施した。その際に子どもの名前とともに「こどもがこの1年で頑張ったこと」「子どもを褒めてほしいこと」「来年に向けて応援してほしいこと」を子どもひとりひとりに伝える。子どもに対して「認める・褒める・応援する」ということを大切にしながら、オーダーメイドの活動を行った。

上記体験活動を通じ、子どもたちの健全な情操を育む他、家庭から寄付金を募り、「寄付」「ボランティア」という形での社会参加を促した。

また、「寄付」を受け貧困家庭や7月の豪雨災害を受け、経済的・精神的に厳しい状況にあり、思い出を得にくい状況にあった岡山市、倉敷市の在宅避難者/みなし仮設入居者への無償訪問も行った。

ボランティア養成数 : 132名

訪問家庭数 : 105家庭(内、貧困・被災家庭105家庭)

訪問先児童数 : 206名

ボランティア研修会

10月27日(土) 国際交流センター 5階会議室 11名

11月3日(土) 国際交流センター 5階会議室 7名

11月17日(土) ルネスホール ※スペシャル講習会&交流会(ESDの視点(1))
60名

11月25日(日) 北公民館 10名

12月8日(土) キューティーパイ 15名

12月15日(土) キューティーパイ 20名

(予定が合わない人は個別対応を行った)

クリスマス以外での一般家庭以外での訪問実施(クリスマス会など)

12月16日(日) いとでんわ

12月22日(土) ポケットサポートクリスマス会

実践研修&チャリティーパレード(ESDの視点(2))

参加児童数 : 20名

参加ボランティア数 : 15名

報告会&振り返り会

1月12日(土) 29名

2月24日(日) 11名

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

(1) 次世代からのメッセージと交流

研修会を兼ねたボランティアや支援者の交流会では「10年前に活動が始まった際に、チャリティーサンタで訪問した先の子ども」(当時小学生、現在高校生)に参加をしてもらい、現在活動するボランティア達にメッセージをもらった。活動紹介と現在活動するボランティアたちと交流することで、かつて子どもだった高校生たちから「今までは贈られる

側だったが、今後は誰かの幸せのために届ける側になりたい」と想いをもらうことができ、次の世代への想いや活動の継承を行うことができた。

(2) 子ども達とのチャリティーパレードの実施

駅前商店街でサンタクロースに扮したボランティアと子ども達が西日本豪雨の被災地のためのチャリティーパレードを行った。

ボランティアのクリスマスイブ前の実践研修を兼ねるとともに、子ども達に寄付に参加してもらい、自分が誰かのために何かをする楽しさを学べる機会としてコーディネートを行った。

(3) 社会参加の情報提供

参加したボランティアに対しては、メールなどでも他の団体のボランティア活動の参加の呼びかけなどを行うなどを行い、社会参加への機会を促している。

(4) 他の ESD 助成活動への参加

助成授与の際、交流会で出会った活動（ピースフェスティバル）にブース参加し、活動の PR とボランティア募集などを行った。助成金を受け取るだけでなく得られる連携を大事にした。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

●家庭からの感想

家庭からの感想については家族にとっての特別な思い出についてや感謝の声が寄せられた。被災家庭は特に思い出についての必要性も含め声が寄せられた。

「当日は親の方がドキドキしながら待っていました。スタッフさんからの手紙を読み上げたら、大興奮してうあー！ どうする！？ほんまに！？と嬉しくてたまらなかったようです。

サンタが来たら戸惑いや恥ずかしさがあったのかちょっと照れたりしていましたが、とっても嬉しかった！とっていました。本当にありがとうございました」

「サンタさんは子供のエピソードをちゃんと一人一人覚えていてくれて 子供を誉めてくれ、こちらが涙がでました。豪雨からの半年の疲れが吹っ飛びそうな笑顔がみれました。年末にステキなプレゼントをありがとうございました」

「自分の名前を知っていることにも驚いていました。7 歳の次女は人見知りなので緊張していましたが、お話をしたりプレゼントを頂いてからは興奮していました。

被災してから、カメラを向けてもあまり笑ってくれなくなりましたが、サンタさんのお陰で笑顔の写真が撮れました。寒い中ご支援くださり、本当にありがとうございます。」

●ボランティアからの感想

ボランティアの感想からは「ボランティア活動を通じて幸せを感じた」という声が多く届き、また継続的に社会参加の活動を行っていきたいという声も多く寄せられた。

「こちらも、あったかい気持ちでお家を後にすることができました。お母さんとのメールのやり取りにも、娘を想う気持ちに溢れてて、愛を感じました。

ほんとに幸せな時間でした。

どんなことをしたら、相手が笑顔になってくれるかな、と考えながら行動することが、笑顔の連鎖を生むんだと思います。」

「子どもたちや家族のあたたかい笑顔に触れることができ、こちらまで幸せを分けてもらいつつ、ボランティアという形で参加できてとても嬉しかったです」

4. 今後の課題と展望

今回は災害により経済や精神面で支援を必要とする家庭に多く訪問をしたが、困窮家庭

(様式第8号)

への支援を引き続き強化していきたい。現在、「子どもの貧困」を直接的にひろうことが難しい状況にある。家庭の需要が高いクリスマスやサンタクロースという題材を使い、家庭へのアウトリーチへの試みを継続・発展させていく。

また社会的に認知度の高いクリスマスを題材としていることで、地域での展開とともに、子どもの貧困への理解者・支援者を広げるモデルとしていく。



(様式第 8 号)

